

安全・安心のしおり

本校では、自然豊かなキャンパスで安全で安心な生活を営めるように、様々な対策に取り組んできています。

I. 防犯対策

- ・日中は正門に警備員が常駐しており、その他の門は常時施錠し閉門しています。
- ・放課後は教職員などが校内を巡視し、夜間は警備員が常駐しています。
- ・幼児生活団と初等部、女子部には、警察への非常通報装置が設置されています。
- ・初等部では登下校確認メールシステムを導入し情報をご家庭とも共有しています。
- ・教職員を対象として、公的機関による不審者対応訓練を実施しています。

II. 防災対策

●耐震化について

- ・校舎や寮、図書館等の耐震工事は完了しており、非構造部材の対応も順次進めています。

●訓練実施について

- ・各部は学期ごとに、火災や地震を想定した避難訓練を実施しています。

●緊急時の体制について

1)安否確認

- ・教職員の役割を組織化し、速やかに災害時対応が開始できるように準備をしています。
- ・時間割等を一括管理し、生徒の所在を素早く把握できるようにしています。
- ・学内の被害状況や具体的な対応は、ホームページやメール配信などでご報告致します。

2)その他

- ・学内には小型無線機が配備されており、停電時でも連絡が取れるようにしています。
- ・東久留米市役所との間で直通の防災無線が設置されています。
- ・AM1242(ニッポン放送)で、各私立学校単位の「学校安否情報」が放送されます。

●災害時用備蓄状況について

- ・初等部は防災頭巾、中等科と高等科はヘルメットを各自の机の近くに用意しています。
- ・中等科と高等科の寮生は、非常持ち出し袋を各自で用意しています。
- ・水と食糧は5日間分の備蓄があり、その他の災害用備蓄品も順次適正数をそろえていっています。
- ・停電時でも井戸水を汲み上げられるように大型発電機、その他小型発電機も数台備えています。
- ・帰宅が困難になった場合に備えて毛布や宿泊スペースなどを確保しています。

●災害時の在校生の帰宅方法について

- ・通学生は引き渡しを原則とし、保護者との連絡がつくまでは学校でお預りいたします。
- ・寮生は帰宅方面別にグループを作り、それぞれ教師が引率して帰宅させます。

●その他

- ・中等科と高等科には、災害発生時の初動対応をまとめた防災カードを配布しています。
- ・東京の私立学校(小中高)は、災害時に所在不明の子どもの出さないように、「登下校時の緊急避難校ネットワーク」により相互に協力しています。

Ⅲ. 食事対策

- 本校は「食の学び」を教育の重要な柱の一つと考え、児童、生徒、学生、教職員が協力して準備し、昼食だけでなく寮における朝夕の食事も全員でとるようにしています。安全・安心な食事ができるよう、各種対応を図っています。(食事面での放射能対応はIV.参照)
- 「食材調達のガイドライン」を設け、より安心して安全な食材の調達に心がけています。具体的には、①新鮮なもの、②旬のもの、③美味しく栄養価の高いもの、④極力農薬や添加物が使用されていないもの、⑤食材の産地が明らかでトレーサビリティ(追跡可能性)のあるもの、を使用するようにしています。
- 食事のバランスを欠くことが無いように、栄養士が中心となって、献立作成や栄養管理を行っています。
- 食材の調理にあたっては文部科学省のマニュアルに基づき一定の基準を設け、衛生管理には十分に配慮をしています。
- 本校では、調理員だけでなく生徒や保護者など多くの方々が食事作りに携わっております。安全な食事作りが行われるよう、体制整備を図っています。

Ⅳ. 放射能対策

- キャンパス内
 - ・2011年夏以降、キャンパスでは国の基準より厳しい 0.13μ シーベルト/時を基準として定め、10年余を経た現在も定点観測を続けています。校内の放射線量は基準を大きく下回っております。
- 食材
 - ・食材の産地分散化を進めることで食物摂取による健康リスクの低減を図っています。
 - ・学内で生産される作物などについても随時検査をして安全性を確認しています。
- 校外学習対象地
 - 1)那須農場
 - ・那須農場においても福島第一原発事故以降、放射線量の定点観測を続けています。その後除染が進んだことから、最高学部は条件付きで那須農場および周辺での研究活動を行っています。近年、活動範囲における放射線量は安全とされる国際基準に近づきつつあることなどから、2022年4月からは最高学部の方式と同様に高等科(女子部・男子部)においても現地状況を十分理解し保護者の承諾を得ることを前提に活動が認められています。引き続き幼児生活団および初等部、中等科(女子部・男子部)の利用は控えております。
 - 2)植林地
 - ・埼玉県名栗は、その都度放射線量測定と水質検査をしてきましたが問題ない数値となっており、引き続き安全性を確認した上で活動を行っています。一方、放射線量が校内基準を上回っている栃木県黒羽での活動は中止しています。

Ⅴ. 感染症対策

昨今のコロナウィルスに由来する感染症(COVID-19 など)や過去の新型インフルエンザ感染症に対して、本校では国や東京都の方針を踏まえ、専門家の意見も交えながらその対策を立案・実行してきております。現在流行中の COVID-19 では、まず 2020 年 6 月に「自由学園新型コロナウィルス感染症対策ガイドライン」を作成し、その後適宜改定を行いながら、より実効性の高いかたちで運用しています。

※各対策に関して詳しくは本校ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ】

学校法人自由学園 広報本部

〒203-8521 東京都東久留米市学園町 1-8-15 TEL 042-428-2122 E-mail: kh@jiyu.ac.jp